

令和7年度すくわくプログラム活動報告

江戸川区南松島保育園

テーマ「水」



本園は園庭遊びや戸外遊びを積極的に行っており、日常の遊びの中で自然と異年齢の交流が図れる環境作りを大切にしています。普段から4.5歳児が雨上がりの水たまりや遊具にたまった雨水を大切に集めて遊ぶ姿が見られ、そうした遊びを小さなクラスが真似る様子や1歳児が何度も園庭の水道に近寄り蛇口に残る水滴を触ろうとするなど、どの年齢においても身近な水は興味や関心の対象であることを職員間で再認識しました。結果、子どもの探求心をくすぐり、五感でも感じられる「水」をテーマに一年間さまざまな遊びを楽しんでみました。



積雪予報の前日に雪を集めるためのタライやケースを用意しておいたので、たくさんの雪を集めることが出来ました。



つめたいね、フワフワだね！

年齢ごとにタライに積もった雪を触ってみました。冷たい感触や雪の柔らかさに加え、太陽に照らされキラキラ光る雪を見たり、自分の手の平にのせた雪が溶ける様子を観察したりしました。



作った雪だるまや氷の板を好きな場所において観察しました。



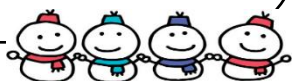


「かき氷を作りたい!」という5歳児の声をきっかけに固形絵具や筆、容器を準備しました。たちまち園庭に青空ペイント教室と共にかき氷屋さんが開店しました。

「おいしそう!」「次は何色にする?」楽しそうな会話や絵の具で彩色したカラフルな雪や氷を見て、小さなクラスも興味を示し、筆の使い方を教わりながら真似をして遊びだし、自然と異年齢での関わりも生まれていました。完成したかき氷も時間経過と共に少しずつ溶け、スプーンですくった時の感触や音にも変化があることにも気づき、砂や石、水なども加えて、より変化を試す姿も見られました。



氷の板に絵の具を塗ると氷の表面にできていた気泡に絵の具がじんわり浸透し、とても綺麗で保育士も一緒になって感動してしまいました。



日常の中で使用する機会の多い水は、子どもの探求心をくすぐり自然と遊びたい気持ちがふくらむ様子がみられます。しかし衣服の洗濯など保護者への負担を考え、制限をかけざるをえない場面もあり、保育士主導で始まるあそびになりがちでした。すくわくプログラムを通して、改めて職員間で子どもが「やってみたい!」と思った時に試すことができ、子ども一人ひとりの探求心や好奇心を満たせるような環境作りに取り組んできました。

発見したことや楽しさ、驚いたことなどを保育士や友だちと共感できた時の子どもの笑顔がとても印象的でした。

今後も子ども達の姿をよく観察し、知的好奇心を育む環境設定や保育の展開を実践していきたいと思います。

